

## 第5次呉市長期総合計画の策定について

### 1 策定の目的

本市においては、平成23年に「第4次呉市長期総合計画（以下「現計画」といいます。）」を策定し、市民が安心して、安全・快適に暮らしていくことができるよう、市民主体のまちづくりや地域の魅力の更なる創出、都市機能の強化・充実に重点戦略に掲げて、10年後の呉市を見据えた真に必要な施策に取り組むとともに、平成28年3月には、「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョン（以下「総合戦略等」といいます。）」を策定し、若年層の定着に向けて、若者が集い、にぎわうまちづくりに取り組んできました。

また、現計画の後期基本計画改定時には、誰もがチャレンジできる、まちに笑顔が溢れる新たな呉に進化させるという「くれワンダーランド構想」の考え方を盛り込み一体的に取り組んでいます。

しかし、少子高齢化や他都市への転出超過に伴う人口減少は依然として進んでおり、社会インフラの更新費用の増大、豪雨や地震等の災害への対策など、複雑化・多様化する多くの課題にも直面しています。

そうした中、新しい時代の流れとして、SDGs<sup>※1</sup>による持続可能な社会の実現、AI（人工知能）・IoT<sup>※2</sup>等の新技術を活用したスマートシティ<sup>※3</sup>やSociety5.0<sup>※4</sup>の実現に向けた取組を社会全体で進めることが求められています。

こうした状況において、市民や民間企業等がワクワク・イキイキと活動することができる都市として、また、女性や若者など、誰もが今後も住み続けたい、外からも訪れてみたいと思う都市として、これまで以上に魅力的なまちづくりを進め、新たな呉市への進化を目指すとともに、その方向性を市役所だけでなく市民や民間企業等が共有するための指針として、「第5次呉市長期総合計画（以下「次期計画」といいます。）」を策定します。

※1 SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称

※2 IoT：Internet of Things（モノのインターネット）の略称

※3 スマートシティ：都市や地域の抱える様々な課題に対して、AIやIoTなどの新技術を活用してマネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られた持続可能な都市・地区

※4 Society5.0：デジタル革新と多様な人々の創造・想像力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会

## 2 策定に当たっての基本姿勢

次期計画の策定に当たっては、次の基本姿勢で取り組みます。

### (1) 市民に分かりやすい計画づくり

ア 市勢や市民ニーズ等を把握し、政策の目的を明確化した上で、合理的根拠に基づく政策立案を行い、政策の有効性を高める。

イ 施策の達成状況を指標等により把握し、P D C Aサイクルを活用した進行管理により取組成果を確認しやすい内容とする。

### (2) 多様な市民の参加機会を創出

ア 市民の声を反映した計画づくりが進められるよう、多様な市民が参加できる機会を設ける。

イ 幅広く市民や関係者の声を集めるため、市民意識調査、各種アンケート調査やパブリックコメント等を行う。

### (3) 各分野の個別計画との整合性

法令等に基づき策定されている個別計画との関係性を明確にし、整合性の取れた計画づくりを行う。

## 3 策定の進め方

次期計画の策定に当たり広範な視点から検討を行うため、呉市総合計画審議会において審議します。

また、庁内検討組織として、呉市総合計画策定委員会を設置し検討します。

### (1) 呉市総合計画審議会

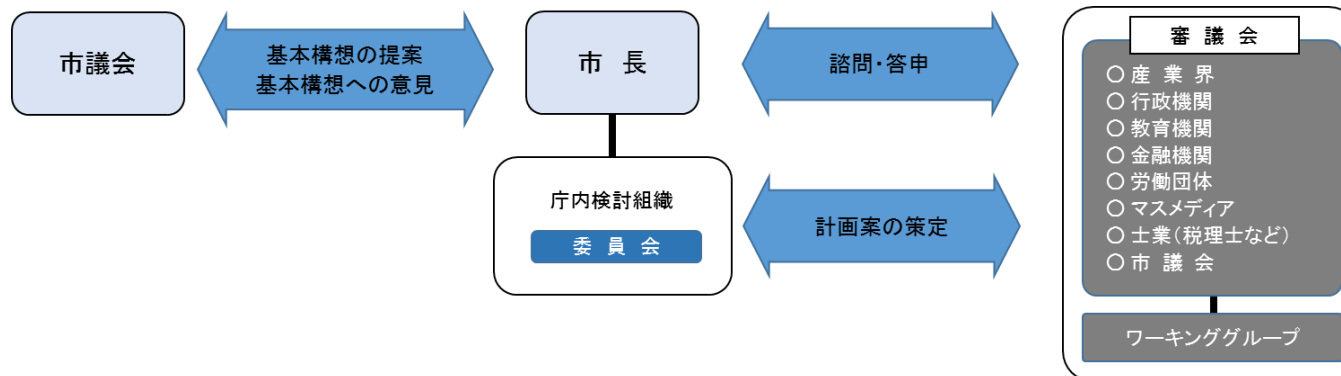
産業界、関係行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、マスメディア、税理士・弁護士などの士業（産官学金労言士）の学識経験者等及び呉市議会で構成する呉市総合計画審議会（以下「審議会」といいます。）において、次期計画について審議します。

また、より具体的な検討を進めるため、審議会の中に、審議会委員と無作為抽出で選出した市民、学識経験者等で構成するワーキンググループを設置します。

### (2) 呉市総合計画策定委員会

全庁的な体制の下で次期計画の原案を作成するため、職員をもって構成する呉市総合計画策定委員会（以下「委員会」といいます。）を設置します。

〈 図1 策定体制 〉

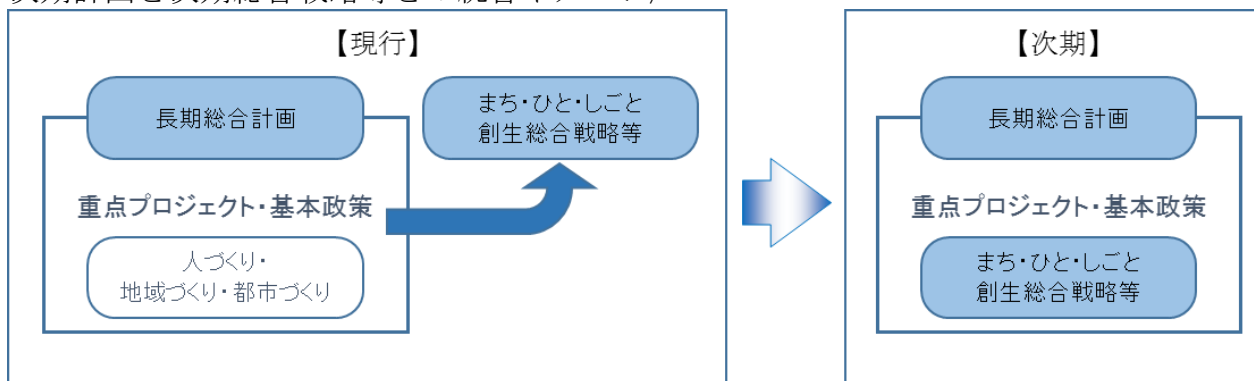


#### 4 次期計画の構成イメージ

##### (1) 次期総合戦略等の位置付け

次期計画は、次期総合戦略等と統合して一体的に策定します。

〈 図2 次期計画と次期総合戦略等との統合イメージ 〉



##### (2) 構成及び期間

現計画は、「基本構想」、「基本計画」の2層構造を採用していますが、他都市では「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造を採用している事例も多いため、策定に当たっての基本姿勢を念頭に効果的な進捗管理の手法や他都市の事例等を研究し、最適な構成について検討します。

〈 図3 構成及び期間の例 〉

構成	構造	R3年度 (2021)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (2030)
基本構想	2層 3層	10年間									
基本計画		前期(5年間)					後期(5年間)				
実施計画		前期(5年間) 毎年ローリング					後期(5年間) 毎年ローリング				

##### (3) 重要業績評価指標 (KPI)

施策の達成状況を把握する重要業績評価指標は、市民が取組成果を確認しやすいものとなるよう検討します。

## 5 策定スケジュール

### (1) 令和元年度

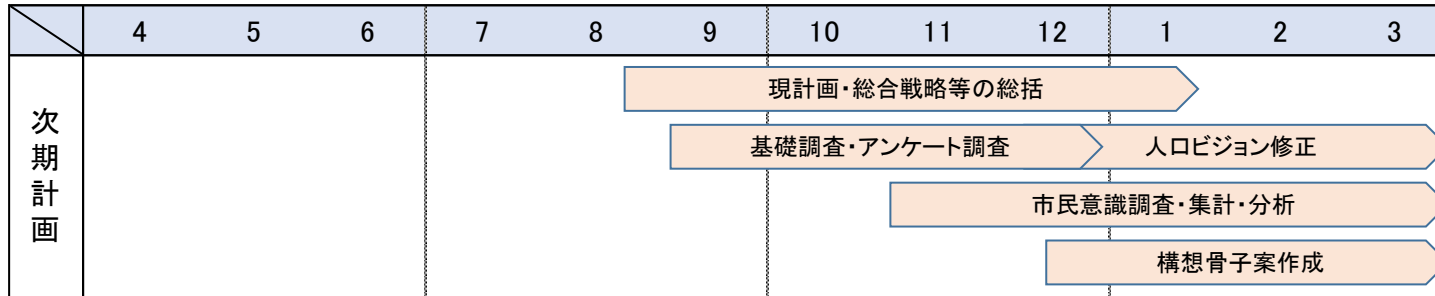
次期計画の策定準備

### (2) 令和2年度

次期計画の策定

〈 図 4 スケジュール (案) 〉

#### 【令和元年度】



#### 【令和2年度】

